

平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：むらさき苑かまど わの家

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372101105		
法人名	社会福祉法人 西根会		
事業所名	むらさき苑かまど わの家		
所在地	岩手県八幡平市田頭第24地割36番地		
自己評価作成日	平成 29年 10月 10日	評価結果市町村受理日	平成30年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/idx.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&lgvssyoCd=0372101105-008&efCd=03&VerSi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29年 10月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

むらさき苑かまど わの家は、平成17年4月に開所しました。敷地内には法人の特別養護老人ホームむらさき苑やデイサービスがあり、避難訓練や行事などの協力体制は大きな強みとなっています。わの家の理念である「みんな輪になり和やかに話し声の聴こえる我が家」は、毎朝職員が唱和することで想いを共有しています。家族や地域皆様との関係作りに努め、利用者の皆様が自分らしく安心して穏やかに生活を営むことができるように支援「しています。又、学生の実習受け入れや保育園児の慰問などで、世代間のコミュニケーションをとる機会があります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内には、法人の特別養護老人ホームとデイサービスが併設されており、災害時の避難訓練や夏祭りの行事等の交流があり、また法人内に看護師がいるため、夜間の支援が得られるなど協力体制が充実している。利用者は、重度化の傾向が見られるものの「利用者は楽しんで生活したいもの」との気持ちを受け止め、生活に変化を持たせた取り組みに力を入れている。たとえば、新幹線を見たい利用者とかかけたり、ホールでパンくい競争をしたり、クリスマス会に寿司職人を呼び、好きなだけ寿司を食べるなどしており、その時々、普段見られない生き生きとした利用者の表情や行動は、職員の喜びや満足にもなっている。また理念の「わの家」を大切に、利用者の側に絶えず寄り添いながら、全員が参加する外出や行事への取り組みをしている。また「災害協力援助隊」等、地域の災害等の協力体制も協力的であり先駆的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎朝、唱和する事で理念の想いを共有している。	理念は、玄関、ホール、事務室に掲示し、利用者代表も参加し、毎朝唱和している。レクレーション時はテーブルを片づけ、輪になり、行事の時も皆が参加しやすいよう側に寄り添うなど理念を意識した支援を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや、コミセン祭りに参加したり、長寿を祝う会では、保育園児と交流をする事ができている。	保育園や小中学校との交流の他、公民館の文化祭等地域の行事への参加当を通して交流を深めている。また市の認知症シンポジウムにパネリストとして参加するなど認知症や事業所の理解に繋がる発信に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護家族のつどいに参加したり、八幡平市認知症シンポジウム参加、認知症について説明する機会があった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や生活状況など報告し、委員の方々から意見をいただきサービスの向上に努めている。研修会に委員の方々と参加、福祉に対し理解や考え方を学べた。	会議は、時に総合避難訓練、敬老会行事に合わせ開催し、利用者、職員と接する機会とし、相互理解の向上に努めている。会議は通常別館で開催し、出席者は管理者のみである。	会議は別館で開催し出席者も管理者のみであるが、議場を事業所とすることで、利用者や職員の生活状況等が把握でき、又職員が参加(準備、進行、説明、記録等)することにより、管理者の負担感の軽減だけでなく、職員育成や研修の機会にもなる。一考を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員が運営推進会議や、入所判定会のメンバーになっているので、情報を提供してもらったり、わの家の状況を説明する機会がある。	運営推進会議のメンバーであり、制度改正など最新情報や徘徊対策などについて情報の提供がある。退院予定者の受け入れなどの協働関係や事業所の会議などの出席もあり、市との連携は図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや研修会等で理解している。転倒の危険のある利用者に対しては、担当を決め見守り強化している。玄関の施錠は夜間以外は開放している。	玄関は日中は施錠せず、チャイムをつけているが、居室の掃出し口は、外部の侵入防止のため、家族の同意を得て施錠している。法人内研修や、経営会議でも話し合い、職員へ周知徹底し、見守りを中心としたケアをしている。言葉についても、納得できる話しかけに配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、学ぶ機会がある。情報を共有し防止に努める。言葉使いにも十分配慮し、職員同士でもお互いに気をつけるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等で学ぶ機会を持ち、必要のある家族には活用できるように支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込みの段階から、入所後の生活について相談に対応している。疑問点を聞きながら説明したり、理解納得を得られている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の通信や家族の面会時に生活の様子を知らせている。意見などあった場合は記録し対応できるよう職員間で申し送っている。サービス担当者会議で要望があった場合も記録し対応している。	毎月の通信にはスナップ写真や生活の様子を伝え、また毎月の支払や訪問時には家族に声掛けしている。利用者は、こちらの提案で希望を選択する場合も多い。家族からは、歩かせてほしいとの要望があり実行した経緯がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日の申し送りだけではなく、日常の会話でも、意見や提案をすることが出来ている。	職員は日常業務の中で意見などを出しやすい環境にしており、また職員会議や経営会議で検討し、運営に反映させている。廊下のカーテンの取り付けや利用者への調理やトイレ介助の工夫等介護サービスに関する提案も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務見直しなどで残業を減らすよう努力しているが、利用者の介護度の上昇や職員不足の為、公休出勤もあり職場環境は良いとは思えない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員不足により外部研修会への参加は行っていないが法人内の研修会には参加している。日々の仕事の中で分からない事は、お互いに聞きながら勉強するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会や交換研修、相互訪問は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と面接し意向を把握し少しでも不安を取り除く。ケアマネや家族からも情報をもらい関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込み時に家族が困っている事や、要望に耳を傾け関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いから必要な支援ができるように努めたり、お互いの思いを聞いて対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに支え合う気持ちや会話をもち、安心して生活が送れるよう、関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況は随時お知らせし、家族と相談し対応している。定期受診などの協力もいただける家族には協力をしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に出来るだけ参加するようにしている。面会者には また来ていただけるよう声掛けしている。	地域の行事や受診時には、馴染の人に合うことも多い。家族には出来るだけ来訪を呼びかけ、姉妹や孫たちも訪れ、家族と墓参りに行き外泊する利用者もいる。デイサービスの慰問の日は歌や踊りを楽しみ、3か月毎の床屋や運営推進会議の委員は、新たな馴染となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席の変更や、利用者同士の関わりを把握し職員が間に入り、スムーズに行くよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に本人や家族の相談・支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、本人の意向を把握するように心がけている。センター方式を活用し意思の把握に努める。	重度化により思いや意向を言葉にできる利用者は、4名ほどである。日々利用者の行動や表情を細かく受け止め、時には提案して決めてもらっている。精神的疾患で暴力傾向のある利用者が、食事や買い物で寄り添う中、今は穏やかに過ごしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報収集し、センター方式を活用し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の日誌で確認したり、申し送りや連絡ノートにて現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の各担当者が介護計画を作成し、全職員で3ヶ月毎にモニタリングを行い、家族の意見も反映するように努めている。	居室担当が業務日誌や連絡ノート、生活介護記録を基に素案を作り、会議で話し合い作成している。生活介護記録ではプランの実施状況を毎日確認しており、モニタリングでは家族の意見も入れ、状況変化があれば、即見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者別に記録しており、日誌でも内容を確認し情報を共有している。申し送りや連絡ノートを活用し対応の統一を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じ、受診や入院時の支援など相談し対応するなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント等も楽しめるように支援したり、保育園児来所し交流を楽しまれている。又デイサービスへ行き慰問の歌や踊りを見たり楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医に情報提供し、家族の協力で受診、又は職員対応で受診の支援をしている。家族の要望があれば送迎も支援している。	受診時の同行は、基本は家族としている。受診時は記録や口頭、必要に応じバイタル記録などを持参し、結果はその都度家族から報告を受けている。職員支援の時は、電話や来訪時に直接家族に情報を伝えている。歯科、眼科、訪問診療時は家族の対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師に相談し適切な対応が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院への情報提供し、家族や病院との連絡をとりながら情報確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルに関する指針を参考に、家族に早い段階から事業所のできることを説明し、理解を得られている。病院、家族と相談し支援していく。	入居時に本人、家族へ重度化や終末期について話し、看取り指針は作成しているが、看取り体制は整備されていないため、利用者、家族が、主治医と相談し対応していただく旨説明し理解を得ている。今後、本人、家族から看取りの要望などの状況を踏まえ、検討課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、定期的に訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人と合同で夜間想定の方災時の避難訓練を、地域の方々と行い、協力体制を築いている。水害時の避難訓練も実施している。	年1回法人全体で夜間を想定した火災総合避難訓練を実施し、地域にも警告サイレンも鳴らす。地域災害協力会の協力を得て、利用者の見守りを行い、また避難経路、場所も特定している。水害の危険区域ではないが、水害の訓練もしている。年2回の設備点検を行い備品や備蓄は法人全体と一部非常食、備品を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、優しい声掛けを意識している。入浴やトイレ介助の対応や声掛けもプライバシーを損ねないように気を配っている。	基本的に笑顔を大切にしており、やさしさと思いやりを持って、話を聞き共感しながら接している。トイレ誘導時の声掛けや、用を足すまで待つ場所の配慮、又入浴時はカーテンを使用しているが、重度化への対応が課題としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の声や想いを聞くことが出来るよう働きかけながら、自己決定の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活を保ちながらも本人の思いを尊重し、出来るだけ支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が選んだ服装や好みを尊重し、着替えを行ったり、長寿を祝う会では化粧をし、おしゃれすることができた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食メニュー紹介をしたり、食べたいものを提供できるように、会話の中で聞き取りをしてりしている。食事形態の見直しや毎月のおやつ作りを利用者といっしょに行い、楽しんでいる。	ご飯とみそ汁以外は特別養護老人ホームで作られている。食前に献立を紹介し、食への関心を持ってもらっている。利用者は下膳やテーブル拭き、食器拭き等出来る範囲で力を発揮している。月2回日曜日は希望を聞き、たこ焼きや綿あめ作り等、食事の特別な楽しみの日にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立により、バランスのとれた食事を提供している。摂取量は毎食記録し、不足している場合は捕食に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、見守りや介助をし確認を行っている。義歯は每晚、洗浄剤使用しつけ置きしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、その人にあった時間に支援を行っている。(時間誘導者もいる)利用者のしぐさ等観察し失敗を減らし精神的なダメージを与えないよう心掛けている。	日中は、最近退院した人以外は、全員トイレを使用し、布パンツ使用者2名の他はリハビリパンツとパットを併用している。トイレ誘導時や失敗した時は、自尊心を損なわない言葉がけや対応に注意し、自立に向けた支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で毎日確認しながら、個々に応じた予防に努めている。身体を動かすように働きかけ水分もこまめに多く摂るように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で曜日や時間を決めていますが、体調や希望を確認しながら、入浴剤を使用し、利用者によっては音楽を聞きながら入浴を楽しめるように努めている。	週2~3回の午後入浴としている。入浴介助の職員を変えたり、日を変えたりして入浴することで、現在入浴を拒む人はいない。入浴剤を使用し、音楽をかける等して、気分よく入浴を楽しんでいる。重度化に伴い、職員2人体制での介助が必要となっており、課題である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、ソファーで居眠りしている利用者や、自室にて午睡している利用者もいるが、日常生活に問題なければ、自由に過ごしている。夜間、巡回し安眠できるように見守りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は毎回チェック表で確認を行っている。処方内容に変更があった時は申し送りをし情報を共有している。変更時の状態観察も申し送りで情報を共有できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、台所、洗濯たたみ等、家事の役割をしていただいております。ドライブや季節の行事など取り入れ支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の気分や希望に合わせて、散歩やゴミ捨てドライブなどに出かけている。花見などの外出、外食など楽しんでもらったり、季節感を感じていただいている。家族の協力により、お盆の外泊・外出も行っている。	日頃は敷地内の散歩をしており、又中庭で音楽をかけて日向ぼっこをし、気持ち良く過ごしている。重度の人にも外に出たいと考え、新幹線を見たい利用者や入場券を買いホームまで行ったり、バスハイクでは全員で外食をし、町内の花見や紅葉狩りに出かけ、全員参加を意識した支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者がいない為、金庫で預かっている。希望に応じて購入するなど家族の方に残高の確認をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、事務所の電話を使用してもらい、届いた手紙は本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真を掲示したり、食堂の掲示板に季節感を感じさせる作品を掲示したりしている。プランターや玄関先に花を植えて楽しんでいる。廊下にある小上がりで、日向ぼっこをしたり、おしゃべりをしたり、音楽を聞いたり楽しまれている。	中庭を囲み廊下と居室、食堂がある。廊下の畳の小上がりは、利用者の日向ぼっこや、くつろぎの場となっている。ホールには季節に合わせ、利用者と職員で作った大きい貼り絵や行事の思い出の写真がある。玄関や中庭には季節の花があり生活感と安心感が得られる居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂での共有スペースのほか、多目的室や東西の小上がりなどで思い思いに過ごす居場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の写真、本人の作品を部屋に飾るなど工夫している。布団や枕など個々に合わせ使用している。	居室には、ベッド、洗面台、吊り棚が備えてあり、暖房はパネルとなっている。利用者はラジオや時計、チェストなど使い慣れた物を持ち込み、位牌や家族との写真を飾る等自分の部屋らしくしており、掃除を自分でする利用者もおり、清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりがあり、安全に移動できるように配慮している。自室の表札などわかりやすく表示している。台所には昇降式の配膳台があり、利用者が安全に活動しやすく生活できるよう配慮している。		